

水辺の活用実証実験の実施結果について

1 報告趣旨

水辺の拠点づくりに向けて、市民や事業者の能動的・継続的な水辺活用を促進するため、水辺の公共空間を活用して、水辺の利活用がしやすい仕組みづくりについて実証実験(イベント)を行ったので、その実施結果について、報告する。

2 報告内容

(1) 実証実験の実施概要

水辺の活用実証実験を市内3か所において実施した。

	オンガタマルシェ 2022	FARMART vol.10 RIVER LIVER !	水辺遊び 802
場所	浅川(小田野中央公園)	南浅川(原宿児童遊園周辺)	浅川南浅川合流点(多賀公園)
開催日時 【天候】	9月24日(土)10時~16時 【雨時々曇り】	11月5日(土)10時~16時 【晴れ】	11月5日(土)6日(日) 10時~18時 【晴れ】
内容	飲食・物販・ワークショップ (70組)及びステージなど	飲食・物販・ワークショップ (25組)など	飲食・物販(30組)及びステージ、浅川河川敷広場でのプレイパーク

	オンガタマルシェ 2022	FARMART vol.10 RIVER LIVER !	水辺遊び 802
市ワークショップ	水辺の生きもの観察ワークショップ	水辺の生きもの観察・お絵描きワークショップ	—
事前告知	(事業者) HP・SNS・チラシ (市) 広報・HP・ポスター・SNS・民間情報誌・新聞投げ込み 等		
ブランドイメージの掲出	“ミズカツ”の「のぼり旗」×10本・DM配布(はがきサイズ)・会場パンフレットに掲載等		
来場者数	5,000 人	1,420 人	2,000 人(計2日間)

(2) アンケート結果

来場者(直接聞き取り方式)及び出店者(WEB・用紙併用)にアンケートを実施した。

※アンケート結果は別紙参照

(3) アンケート結果による考察

ア 水辺における賑わい創出と事業活動の継続性

オンガタマルシェ 2022 の来場者アンケートではミズカツの取組について、「楽しんだ」が93%を占めている。また、他会場でも同様の傾向であり、各会場の来場者数も1千人以上を数えたことから、イベント開催による賑わい創出に一定の効果があったといえる。また、出店者アンケートにおいても、出店意向について、「意向あり」が71%あり、水辺空間における事業活動に継続性が見込めると考えられる。

イ 水辺における事業活動の収益性

出店者アンケートの売上結果に対する満足度について、「とても満足している」・「満足している」が合わせて65%であり、事業者においても、収益性が見込めるイベントであったと判断したと考えられる。

ウ 水辺の活用イベントで使用したブランドイメージの名称及びバナーデザインの評価

来場者アンケート結果では、デザインについて、「とても良い」・「良い」が合わせて 86%あり、好意的な評価であった。今後も、「ミズカツ」の取組・周知のために活用していく。

エ 地元町会との連携

水辺の活用イベントの開催にあたっては、地元町会との調整等を行うことを通じて、今後に向けて連携を深めていく契機となった。水辺活用の展開により、地域の経済活動やコミュニティの醸成に繋げていくことができるよう、今後、さらに連携を深化させていく。

(4) アンケート結果を踏まえた今後の方向性

ア ミズカツ取組の推進

実証実験により得られた水辺活用の機運の高まりを継続していくために、水辺を中心とした多角的な利活用の展開を図り、関係する市内の所管部署と連携し、地元・事業者等を含めた水辺活用の仕組みづくりを行っていく。

また、先進自治体の具体的な進め方等について調査を行うとともに、国や都が進めている水辺の利活用推進支援制度の活用を検討する。

イ ミズカツとしての実証実験イベント支援等

実証実験を行った3か所については、単発イベントとしては有効性が確認できた。

今後は、更なる水辺活用の定着に向けて、異なる条件下(出店数・開催時期や期間等)での実証実験を行い、調査を行う。

ウ 水辺活用のブランドイメージの構築に向けた取組

好評価を受けたミズカツのデザインを活用し、水辺の利活用の目的や価値を地元町会や事業者だけでなく、広く市民へ共有し、ブランドイメージの構築、展開を進める。

エ ミズカツと連携した環境学習の事業推進

来場者アンケートでは、「水遊び」に対する期待が高いことから、水辺の体験学習の拡充に取り組むとともに、“ミズカツ”の周知啓発に繋げていく。

3 今後の予定

令和5年度（2023年度）

- ・水辺活用の仕組みづくりの検討
- ・“ミズカツ”としての実証実験イベント支援等
- ・“ミズカツ”の取組を通じた環境学習の事業推進